

科 目 名

薬の歴史 History of Drug Development

2年 後期 1単位 必修

上 釜 兼 人

概要・目標

薬の歴史を辿ると、紀元前に病気の原因を追及したヒポクラテスの時代に遡る。中国では生薬を用いた医療が紀元前に体系化され、西欧では13世紀に医薬分業が法制化された。

一方、日本の薬学や医薬品開発は諸外国とは異なる独自の変遷を辿り今日に至っている。

病気との闘いの人類の長い歴史の中で、薬がどのように認識され、使用され、どのような役割を演じてきたかを検証すると共に、生命科学の発達との関連において薬に対する概念や価値観の変遷、薬と社会とのかかわりについて学ぶ。

授業計画

1. 医薬品の種類と適正使用〈B(1)-3-1~5〉、〈C17(1)-2-3〉
 - ・ 医薬品の定義・種類、麻薬、医療経済、ジェネリック薬
2. 世界における薬の歴史〈B(1)-1-1,2〉
 - ・ 薬の概念の古代・中世・近世における史的展開
3. 日本の薬学事情の変遷と国際比較〈B(1)-5-1〉、〈C18(3)-2-1〉
 - ・ 日本における薬の歴史、薬局方、医薬分業、漢方薬と西洋薬
4. 近代・現代における医薬品開発の歴史〈B(1)-3-3〉、〈C17(1)-4-3,4〉
 - ・ 化学療法剤、抗生物質、生理活性ペプチド類の開発と進歩
5. 薬の投与形態の変遷と投与技術の進歩〈B(1)-3-4〉、〈C16(3)-1-1,2〉
 - ・ 局方製剤、新剤形、DDS の進歩、ナノ粒子の新機能と課題
6. 21世紀の医薬品開発と医療〈A(1)-1-1~4〉、〈C17(3)-2-1〉
 - ・ ゲノム創薬、遺伝子治療、テーラーメイド医療、生命倫理
7. 薬と社会のかかわり〈B(1)-4-2,3〉、〈A(2)-2-13〉、〈C18(3)-4-2,3〉
 - ・ 高齢化社会と医療、薬害、医療制度改革

授業方法

講義形式

評価方法

定期試験と出席状況を重視し、毎回実施するミニテストの結果と共に総合的に評価する。

教 材

講義用資料冊子と視聴覚教材を活用する。

参考書：「やさしいくすりの歴史」石坂哲夫 著（南山堂）、「国際薬学史」山川浩司 著（南江堂）